

編輯室の内外

政府の豫算編成時期が來た、産業立國を

標榜してゐる内閣ぢやもの産業道路の豫算などは當然認められるものと高を括つてゐたら、三土藏相は全部之を否認して普通道路改良費にたつた三百五十萬圓の支出を認めただけのこと、其の外産業立國に則して計畫された河川や港灣の豫算は枕を並べて討死。産業立國なんて誰が言つたかと言つた調子の査定振り、社會政策の實行などは忘れてしまつた顔、一體三土藏相は何處の内閣に所屬してゐるのだい、と愚痴を言つて見たつて間に合はない。

會長は首相や内相に膝詰談判に出かけ、産業立國の爲に産業道路を大に助勢するぞ吹聴して歩いた田中首相も、鈴木前内相も此査定には黙つてゐる譯にも行かず、腕の喜三郎を發揮するのは今ぢやさげかり

政友會幹部會で氣勢を擧げる、幹部は決議を首相に提出すると言つた調子で、遂に吾が年來主張して來た産業道路問題は、天下の大問題と爲つた譯。

形勢こうなつては三土藏相も無關心である譯にも行かず、喜三郎前内相などは政友會の政策を容れないやうな藏相は罷めて貰う外ないこと、近年にない大方み、當の望月内相よりは熱心な奮闘振りを見せた、編輯同人の感謝するところ。

遂に三百五十萬圓の増加が認められ、七百萬圓の豫算が是認されたこと電話があつたとき、涙ぐましい程嬉しかつた、が併し道路改良には鏝一文も出さぬと言つた藏相が、俄に三百五十萬圓を出さぬ閣議で即答したのは餘り出來すぎてゐると思つたら按に違はず、百五十萬圓は國庫剩餘金から出すが、其の外の財源は河川や港灣の事業を繰延べて夫れで賄へと言ふ條件付きであつた。ナインダ話によく聞て來て呉れば藏

相相手に相撲はされぬ、三土藏相隨分人を喰つてゐる。

結局六百五十萬圓で鬼が着いたが、産業道路に全力を集注せしめて外の復活要求を吹き飛ばす藏相の腹であつたが、兎も角予算戰では藏相が勝つた形だ、内務省の御連中禪を緊めて掛らなければ今後のことが氣遣はれるが、禪の持合せが無い相だ、心細い。

繰延べの厄に遭つた河川や港灣には深甚の敬意を表して同情する、が併し昔のやうに河川や港灣ばかりのことが土木行政の重きを爲すもので無いと言ふ暗示を得た心持もする。

終りに産業道路否な道路改良豫算の爲に、陸になり日向に爲つて活動して呉れた各位に對し謹んでお禮を申すのであるが、殊に職責上とは言へ此問題の爲に奮闘された、内務省土木局長宮崎通之助氏に多大の敬意を表して筆を擱く（路政僞）